

視点

糖尿病重症化予防講習会 (略称：福島ストップ Diabetes 講習会) (福島県糖尿病対策推進会議)



福島県医師会常任理事

岩波 洋

はじめに

福島県では2017年12月11日に、福島県医師会、福島県糖尿病対策推進会議及び福島県による「福島県糖尿病性腎症重症化プログラム」が策定（福島県国民健康保険課が主導、内容の詳細に関しては省略）され、2018年1月31日に3者の連携協定が締結された。

福島県糖尿病性腎症重症化プログラムとは

本プログラムは、糖尿病が重症化するリスクが高い対象者を選定し、保険者や医療関係者等の関係機関が連携して重症化予防対象者へ必要なアプローチを行い、心臓病、末期腎不全等への重症化を防止していくことを目的とする。また、住民の健康保持・増進、QOLの維持とともに、医療費の適正化を図っていくものとする。

「プログラムにおける主な取り組み—骨子は」

- 1) 医療機関未受診者・治療中断者への受診勧奨

- 2) 重症化予防対象者への保健指導
- 3) かかりつけ医と糖尿病・腎臓専門医との連携
- 4) 実施したプログラムの評価、などである。

これらの中で、

「福島県医師会」が担うべき役割としては、福島県糖尿病性腎症重症化予防プログラム（以下「県プログラム」という）を都市医師会に周知し、保険者等によるプログラムの取組が円滑に実施できるよう協力するとともに、かかりつけ医、糖尿病専門医、腎臓専門医等との連携の強化、保険者等との連携体制の構築に向けて協力するものとする。併せて、「福島県糖尿病対策推進会議」が担うべき役割としては、福島県糖尿病対策推進会議は、糖尿病性腎症重症化予防に係る県や保険者等の取組について、構成団体へ周知するとともに医学的・科学的観点から助言を行うなど、保険者等の取組に協力するものとする。

他に、福島県、福島県歯科医師会、福島県薬剤師会、福島県国民健康保険者、福島県後期高齢者医療広域連合、福島県保険者協議会らにそれぞれの役割が含まれている。

以上に関して、福島県は、県プログラムに係る医師や保健師等を対象に短期間（2018年2月～3月）に各郡市医師会（16方部）で地区別の説明会を開催してきた。約1年後の福島県糖尿病部会（2019年1月16日）が開催されたが、自治体に温度差があり、十分な理解が得られず、各保健福祉事務所から以下のような質問があった。

〈自治体からの共通の質問〉

- 先生方の専門性があるので、糖尿病重症化予防だけに注力するのは難しいが、先生方に糖尿病に関する共通認識を持ってもらうための講習会などを実施できればと思う。
- かかりつけ医との連携及び、かかりつけ医と専門医の連携が難しいのでは。
- 重症化予防を推進していくための県庁・保健福祉事務所・市町村・糖尿病部会の体制や役割が不明確。
- 一定レベルの保健指導スキルが保持できるよう、研修体制をして欲しい。
- かかりつけ医と専門医との連携については、重症化予防の推進と合わせて、県レベルでの理解と協力をお願いしたい。
- プログラムは抽象的なため、具体的な動きにつながりにくいので統一して欲しい。県内統一された対象者の基準及び様式（紹介状、保健指導連絡票）を整備して欲しい。医師会向けの研修、説明をお願いしたい。
- 保健指導の技術を高める勉強の機会が欲しい。
- 管内市町村に専門医が少なく、大きな病気である場合は都市部の総合病院や県立医大を受診することになるので、管外の医療機

関と連携も必要になるため、医師から連絡票の様式が統一されてないと作業が煩雑になるのでは。連絡様式の県内統一について、検討して欲しい。

県医師会内には、福島県糖尿病対策推進会議が設置されて久しいが、その事業は、世界糖尿病デーに合わせた市民公開講座（県北では毎年開催）を年1回6方部持ち回りでを行い、その約1ヶ月前に、住民が糖尿病を理解するように、新聞での啓発などを行ってきた。併せて、福島県独自の糖尿病療養指導士を育てるべく6方部の専門医（推薦された会議の委員）の力をかりて数回の講義と最終日に試験を行い、現在までに約950名の看護師、薬剤師などが合格し県医師会の認定を受けられ生活習慣病の予防に一役かってきた。一方、各方部の医師らには系統だった糖尿病に対する講習会などはほとんどなく、製薬メーカーからの新薬などの勉強会がほとんどであった。

糖尿病対策推進会議の副会長であった鳥袋充生教授・現会長（福島県立医大糖尿病・内分泌・代謝内科学講座主任教授）は、前任地徳島県での経験を踏まえ、福島県の糖尿病の現状を以下のごとく分析した。

- ① 診療は糖尿病学会認定専門医が中心となって普及させるべきであるが、福島県ではその数が全国平均の6割と少ない（2018年9月27日現在福島県全体で51名）。
 - ② 糖尿病専門医と糖尿病診療の多くを担う非専門医との情報交換の場が不足していること。
 - ③ 標準的な糖尿病診療を示すプラットフォーム（ホームページ）がない。などであった。
- これらを解消・充実するために、福島

県糖尿病重症化予防講習会プログラムの策定・実施が必要であると提言され急ぎ決定した。

それらの内容は、

- ① 標準的な糖尿病診療を示すプラットフォーム（ホームページ）を策定すること。
- ② 福島県内の各地域で糖尿病診療を担うすべての医師を対象に標準的な糖尿病診療を普及させること、である。
- ③ 福島県の糖尿病の講習制度を構築し、糖尿病診療に関心のある医師（糖尿病専門医以外のかかりつけ医の先生方）の向上・標準化を図るための講習部会（講習研修、更新研修）を継続して実施し、地域における糖尿病診療の窓口となる医師の養成および円滑なる医療連携を推進することを目的とする。

これらは、今年度新規事業の「糖尿病重症化予防対策事業」の概要の中に盛り込まれている。コアメンバー（後記）と県の努力により、令和元年度・糖尿病重症化予防対策事業の概要（その中に福島県糖尿病重症化予防講習会（案））が協議され、6月13日の福島県糖尿病対策推進会議で承認された。

令和元年度 糖尿病重症化予防対策事業の概要

1. 背景（重複）

- (1) 本県では、糖尿病有病者の増加が課題となっている。糖尿病は放置すると網膜症・腎症・神経障害などの合併症を引き起こし、患者のQOLを著しく低下させるとともに生命を脅かす。
- (2) 本県の糖尿病有病者が増加傾向にある中、糖尿病の標準的診療は福島県全体で十分に広まっておらず、早急な解決手段を講じる必要がある。
- (3) 平成29年12月に「福島県糖尿病性腎症

重症化予防プログラム」を策定し、糖尿病性腎症重症化予防を推進しているが、適正な医療に結びつけるために、市町村とかかりつけ医、かかりつけ医と専門医との連携が課題となっている。

2. 事業目的

- (1) かかりつけ医の糖尿病診療の向上・標準化を図る。
- (2) 糖尿病有病者に対する治療を適切に行うために、かかりつけ医と糖尿病専門医、市町村等との連携強化を図る。

3. 実施主体 福島県医師会（県からの委託）

4. 事業内容

- (1) 糖尿病重症化予防講習会のプログラム策定検討会の開催
 - 1) 内容：糖尿病重症化予防講習会における講習会のプログラムの策定、講習会のコアスライドデータの作成
 - 2) 検討会メンバー：福島県糖尿病対策推進会議の構成委員の中のコアメンバー（鳥袋充生・福島県立医大糖尿病内分泌講座教授、田中健一・福島県立医大腎臓内科、工藤明宏・大原病院糖尿病内科、梅津啓孝・うめつL S内科クリニック院長、事務局2名）は6名とする。このメンバーによる数回の協議を経てその骨子が以下のごとく決まった。
- (2) 糖尿病重症化予防講習会（略称：福島ストップ Diabetes 講習会）の開催
 - 1) 内容：研修カリキュラムについては、上記(1)の講習会のプログラム策定検討会において定めたものとする。基本的な内容の「ベーシック」と専門的な「アドバンス」にグレード分けし、本年度は「ベーシック」を取り扱う。

- 1 コマ30分×5 コマの講習会とする。各コマ最後の5分間に内容確認の時間を設けその場でQ & Aを行う。
- 2) 講 師：福島県糖尿病対策推進会議のメンバー及び各地区で糖尿病治療を行っている医師に依頼する。講師にはコアスライドデータをもとに、追加等をしてもらい講演していただく。
- 3) 対象者：県内各地で糖尿病診療を担う全てのかかりつけ医、保健師、糖尿病療養指導士等の医師以外の聴講も可能。
- 4) 開催回数及び場所 計6回：県北(1)、県中(1)、県南(1)、会津(1)、相双(1)、いわき(1)
- 5) 受講者には受講修了証を発行する。
- 6) (3)糖尿病重症化予防対策事業内容を福島県医師会ホームページへ掲載

福島県医師会のホームページ内に、糖尿病対策に関する専用のページを立ち上げ、講習会のプログラムや講習会の案内、講習会を受講した医師の氏名(同意を得た上で)等を掲載する。また、受講できない方を対象にeラーニング等の方法について導入を検討。

5. 事業（講習会等）スケジュール（下記）
6. その他：今後の方向性として、本事業に腎重症化（CKD）等の予防も組込んでいくこと。

〈糖尿病重症化予防講習会の実施状況〉

1. 講義内容

- (1) 病態と診断：糖尿病とは、糖尿病の分類、糖尿病の診断
- (2) 合併症：急性合併症、慢性合併症(しめじ、こがにはこ入り)
- (3) 糖尿病治療：治療方針の立て方、糖尿病治療の種類、糖尿病治療薬（4つのポイント）、糖尿病治療の実際
- (4) 療 養 指 導：糖尿病教育、食事療法、運動療法、低血糖、シックデイ、フットケア
- (5) 医 療 連 携：糖尿病と健康寿命、福島県における糖尿病の医療連携体制（コメディカル、かかりつけ医、専門医）、糖尿病重症化予防と糖尿病腎症重症化予防、糖尿病専門医との医療連携、腎臓内科専門医との医療連携、眼科専門医との医療連携、循環器専門医との医療連携

2. 講習会の地区・日程、受講者数

(令和元年10月末現在)

	地 区	開催日	受講者数		
			医 師	医療従事者	計
第1回	県北・福島市	6月22日(土)	51	20	71
第2回	県中・郡山市	7月13日(土)	38	28	66
第3回	いわき市	8月24日(土)	25	13	38
第4回	県南・白河市	9月14日(土)	12	31	43
第5回	会津若松市	10月5日(土)	16	20	36
第6回	相双・南相馬市	11月30日(土)			
計			142	112	254

講習会の実施と日程は上記のごとく決定され、短い周知期間であったが、第1回を福島市内の県医師会館で開催できた。コアのメンバーが講義を担当され、参加者は、医師51名、医療関係者20名と多かった。福島市は糖尿病性腎症のプログラムをいち早く作成し、実行と実績を上げ、関心の高さを思わせた。順次月1回、6方部で行い今年中に完結予定である。

3. 受講後のアンケート結果

講習会後のアンケートは、第2回から医師と医療従事者等とに分けての結果を下記に記す。

(1) 内容に対する満足度

○医師：

理解できた 57.1%、だいたいできた 37.1%、普通5.7%。

○医療従事者：

大変参考になった 37.1%、参考になった 60.0%

以上、概ね良好な結果であった。今回は先生方の診療科には記載を求めなかった。

(2) その他の意見

○医師：

- テキスト、スライドが分かり易かった。
- 治療の流れから連携について知らなかったことが理解できた。知識が整理されてよかったです。
- 毎年続けて欲しいです。
- 薬の使い方について知りたい。
- 内科が専門でない医師がどのように投薬していけばよいのか治療を中心に講義を。

- 非専門医が外来で糖尿病患者を継続的に診ていく際の注意点など。
- 具体的な症例を含めた内容、専門医への紹介のタイミング、専門医の選択など。

○医療従事者：

- 保健指導の中で活用していきたい。
- 県の現状や取組を地域のドクターに知ってもらえたことで、市の取組にも関心を持っていただけるのではないかと感じた。
- より具体的な指導法があるとありがたいです。
- 具体的な例を挙げての講義が聴きたい。

おわりに

福島市の行政と医師会で始まった糖尿病性腎症重症化プログラムでの連携が、他の自治体と医師会の説明会などは停滞していたが、最近、都市部や郡市でも行われるようになってきている。

かかりつけ医と専門医との連携など、日常の多忙な診療の中、糖尿病患者を一度見直す機会にもなっていたら幸いです。

今後、先生方のご意見やご希望に沿うよう福島県医師会糖尿病対策推進会議内で検討させていただきます。

本稿の要旨は、県の糖尿病部会の会議資料や鳥袋教授らの県糖尿病対策推進会議のコアメンバーの作成した講習会プログラムなどを借用し、執筆しましたことを書き添えます。